

令和3年度大田区総合防災訓練（震災編）の実施結果について

令和3年度大田区総合防災訓練（震災編）は、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、自宅等にて親子で参加できるようweb会議システム（Zoom）を利用したリモート型の防災アトラクションを実施した。

1 日時等

（1）令和4年3月20日（日）

（2）計3回実施

10時から11時30分、13時から14時30分、15時から16時30分

2 申込及び参加状況

（1）申込状況

計450組（各回150組×3回）の募集枠に対し、申込開始から2日間で定員となった。

（2）当日の参加状況

計365組が参加（1回目：129組、2回目：119組、3回目：117組）

3 防災アトラクションの概要

別紙のとおり

4 アンケート結果

（1）参加者の傾向として、「10代（46%）」、「30代（17%）」、「40代（28%）」であり、小学生を中心に親子での参加が多かった。

（2）防災アトラクションを通じた防災啓発について、「役に立った（86%）」、「どちらかといえば役に立った（11%）」であり、普及効果があった。

（3）参加後の災害準備への意欲について、「意欲が上がった（74%）」、「どちらかといえば上がった（22%）」であり、防災意識の向上につながった。

（4）参加後に取り組みたい項目として、「備蓄品の準備（49%）」、「家具等の転倒防止（25%）」、「避難所・避難場所の確認（18%）」であり、区民への防災意識の高揚が図られた。

（5）また参加したいかについては、「参加したい（61%）」、「どちらかといえば参加したい（28%）」であり、次回の開催を希望する声が多かった。

防災アトラクションの実施概要

1 区長あいさつ

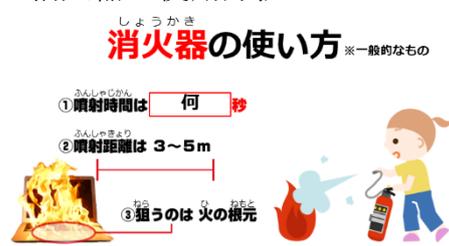
開演に先立ち、区長よりあいさつメッセージ動画を配信



2 第1ステージ

地震発生直後を想定した問題を実施

・ 消火器の使用方法



・ 街頭消火器紹介



・ 煙の中での避難方法を確認



3 第2ステージ

「防災謎解き」から「地震や災害対応について解説」

・ 進行役による演出



・ 謎解き実施



・ 解説や防災アプリの紹介



【「避難所」と「避難場所」の違い】
「避難場所」
 ・地震により大規模な火災が発生した場合、火災が収まるまで一時的に避難する場所
 ・大きな公園や河川敷などが指定されています。
「避難所」
 ・地震により家屋が倒壊したり被災したりして、住い家を失った人が一定の期間、避難生活を送る場所
 ・小中学校などが指定されています。

4 第3ステージ

参加者とディスカッション

・ 停電を想定した考察

話し合ってみよう! ①

今日から5日間の**停電**が発生!!
 自分の生活で困ることは??

・ 感染対策や備蓄確認

【避難する際の注意点】
 ひなんじょ
避難所
 with **コロナ**

準備している住民のために、スタンプを置いてみよう!

水(3~7日分)	非常食(3~7日分)	手回しラジオ	非常用トイレ (7日分)
ペーパータオル/ウェットティッシュ	救急用品 (消毒液)	ソーラー充電器	ウェットティッシュ
カセットコンロセット	マスク	消毒液	体温計

・ 自助、共助の必要性を確認

【公助の現実】首都直下地震の被害想定 (大田区)

◆火災による焼損棟数	32,218棟
◆大田区内消防ポンプ自動車数	30台
◆負傷者数	10,412人
◆大田区内の救急車台数	14台

出典: 消防庁(1)18-0000